

平成 31 年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西が岡小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成 31 年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語	48人
② 算数	48人
③ 児童質問紙	49人

5 留意事項

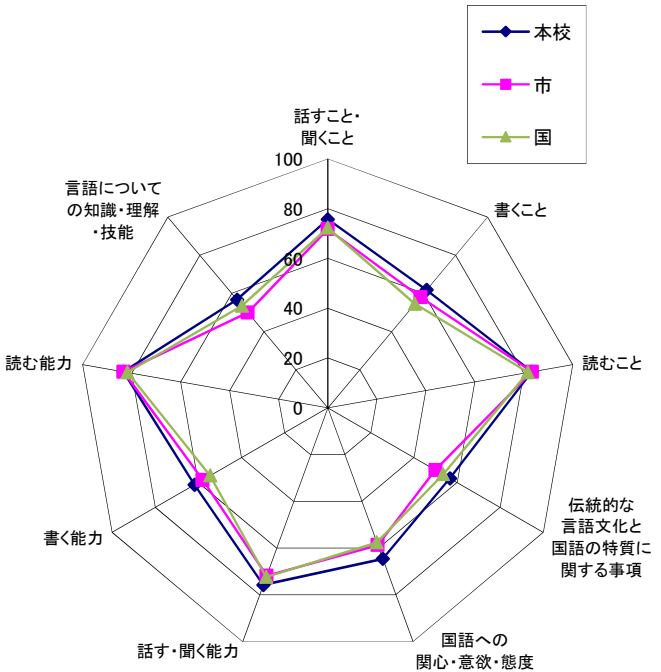
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立西が岡小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	75.7	71.8	72.3
	書くこと	61.8	58.0	54.5
	読むこと	83.3	83.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	56.7	50.0	53.5
観点	国語への関心・意欲・態度	64.6	58.7	57.6
	話す・聞く能力	75.7	71.8	72.3
	書く能力	61.8	58.0	54.5
	読む能力	83.3	83.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	56.7	50.0	53.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

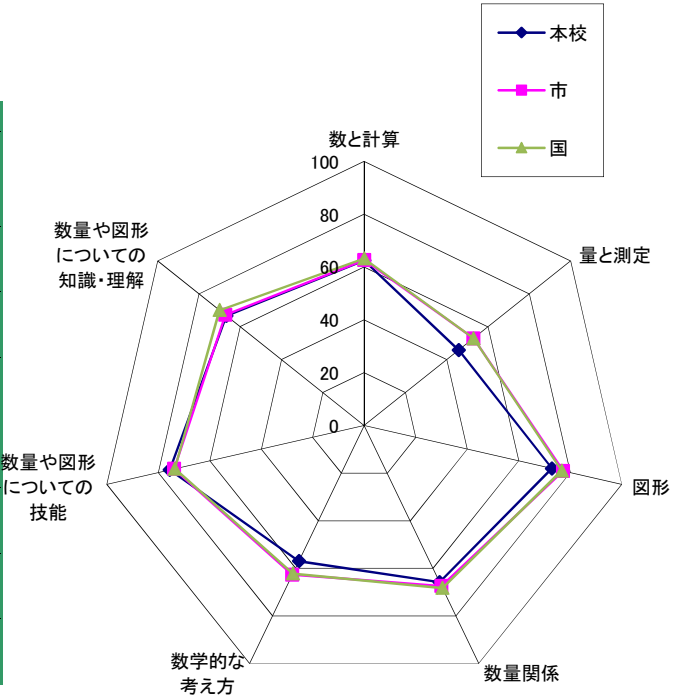
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○本校の平均正答率は全国と比べて3.4ポイント上回っている。 ○話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる問題における本校の正答率は85.4%で、全国68.2%を17.2ポイント上回っている。	・今後も話し合い活動を学習に意図的に取り入れ、相手に伝わる話し方を考えたり、目的意識をもって聞いたりする力を伸ばしていく。 ・スピーチをする機会を増やし、聞き手に応じた言葉遣いや分かりやすい表現ができるように継続的に指導していく。
書くこと	○本校の平均正答率は全国と比べて7.3ポイント上回っている。 ○目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く問題における本校の正答率は31.3%であり、全国平均の28.8%を2.5ポイント上回っている。また、無解答率が低く、書くことに挑戦しようとする児童が多い。普段から児童の言葉でまとめることを大切にしてきた成果が表れている。	・これまで通り、授業において学習内容を自分の言葉でまとめたり、友達の考えを自分なりに組み立て直して文章化するような活動を取り入れていく。 ・国語の授業だけでなく、行事後の感想や意見などを文章化する活動を取り入れ、互いに読み合うことで、書く力のさらなる向上につなげていく。
読むこと	○本校の平均正答率は83.3%、全国平均正答率は81.7%となっており、全国と比べて1.6ポイント上回っている。 ○目的に応じて本や文章全体を効果的に読んだり、文章の内容を的確に押さえて自分の考えを明確にしながらかんたに読んだりする力が付いてきている。言葉を丁寧に扱って進める読み取りを学習してきた成果が表れている。	・これまで通り、短い文章を丁寧に読み込み、基礎的・基本的な学力をしっかりと身に付けさせる。その上で、読書の時間を確保して長い文章を読む場を増やし、読み取る力を深められるよう指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○本校の平均正答率は全国と比べて3.2ポイント上回っている。 ○「タイショウ」を漢字で表す問題では、本校の正答率は83.3%であり、全国平均正答率の41.9%を41.4ポイントと大きく上回っている。 ●「カンシン」を漢字で表す問題では、本校の正答率は20.8%で、全国平均正答率35.6%を14.8ポイント下回っている。	・漢字や慣用句といった日本語独自の内容については、自主学習やプリント学習で復習させ、定着を図る。 ・意見文などを読む際には、接続詞に着目するために記号や赤線を用いたり、別の表現に言い換えさせたりする指導を行っていく。

宇都宮市立西が岡小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	62.5	62.7	63.2
	量と測定	45.8	52.9	52.9
	図形	72.9	77.3	76.7
	数量関係	65.8	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	57.0	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	75.5	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	66.7	67.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●本校の正答率は62.5%, 全国の正答率は63.2%で, 0.7ポイント下回っている。 ●「減法の計算の仕方についてまとめたことをもとに, 除法の計算の仕方についてまとめるとどのようになるのかを書く」問題の正答率は20.8%で, 全国の正答率の31.1%を10.3ポイント下回っている。	・四則の計算を自主学習やプリント学習で復習し, 定着を図っていく。 ・授業において, 減法から除法の仕方を発展的に考える問題に取り組ませ, 計算の順序や規則を見出し, 表現できる力を育てる。
量と測定	●本校の正答率は45.8%, 全国の正答率は52.9%で, 7.1ポイント下回っている。 ●「二つの棒グラフから一人当たりの水の使用量について分かることを選び, 選んだわけを書く」問題の正答率は41.7%で, 全国の正答率の52.1%を10.4ポイント下回っている。	・資料から分かることを書く経験を積み重ね, 表やグラフを正しく読み取る力を育てていく。 ・複数の資料を組み合わせながら, 値や数量の変化などを読み取る場を増やしていく。
図形	●本校の正答率は72.9%, 全国の正答率は76.7%で, 3.8ポイント下回っている。 ●「長方形を直線で切ってできた図形の中から台形を選ぶ」問題の正答率は87.5%で, 全国の正答率の93.1%を5.6ポイント下回っている。	・様々な図形の性質について, 自主学習やプリント学習で復習し定着を図っていくとともに, 図形を描いたり組み合わせたりして, 図形についての理解を深めていく。
数量関係	●本校の正答率は65.8%, 全国の正答率は68.3%で, 2.5ポイント下回っている。 ○「洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるために, $6 + 0.5 \times 2$ を計算する」問題の正答率は70.8%で, 全国の正答率の60.1%を10.7ポイント上回っている。	・加法と乗法の混合や整数と小数の混合などといったやや複雑な計算を解くことができるので, これまで通り計算の反復練習を自主学習やプリント, 朝の学習などで行い, 正確に計算できる力を高めていく。

宇都宮市立西が岡小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校のきまりを守っている」と答えた児童が100%であり、本校で重点的に進めている「よい子のきまり」をもとにした規範意識の向上が図られているものと考えられる。児童指導部による月目標の設定や、各学級における道徳での規範意識に関連した学習も効果的であった。

今後も現状に満足せず、きまりを守る大切さに迫れる指導支援を行っていく。

○「国語の勉強が好きである」と答えた児童が79.6%（全国64.2%）、「算数の勉強が好きである」と答えた児童が77.6%（全国68.6%）で、ともに全国より高い数値となっている。「わかる・できる」が感じられるような学習指導を続けてきた成果だと考えられる。

今後も、基礎基本を大切にしながら、学び合いを生かした授業展開をしたり、児童の生活に結び付くような教材を取り入れたりして、意欲をもって学習できるようにする。

●「国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝えるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫している」と答えた児童は59.2%で、全国の68.5%に比べて9.3ポイント低い。

今後、各教科の授業において、言語活動がさらに活発になるように、ねらいを明確にした話合いを設定して指導していく。また、効果的な伝え方の具体例を様々な場で意識的に取り上げ、そのよさについて考えられるような授業を展開していく。

●「学校の授業時間以外に、普段1日当たり30分以上読書をしている」と回答している児童は20.4%で、全国の39.8%より19.4ポイント下回っている。本が児童にとって身近なものとなるよう、司書教諭と連携を図り、生涯を通じて本に親しもうとする児童を育てていく。

宇都宮市立西が岡小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
国語科を中心とし、自分の言葉で文章にまとめる指導の充実	・作文指導やノート指導の中で、マス目の用紙を使用して、指定された文字数や段落構成で書く経験をさせる。 ・各教科の授業の中で、自分の考えを文章で表す活動を意図的に多く取り入れる。	・「公衆電話について調べたことを報告する文章の指定された場所に分かったことをまとめて書く」問題の正答率は31.3%で、全国の平均正答率より2.5ポイント上回っている。しかし、算数の記述式の問題では、すべての項目で全国の平均正答率を下回り、特に「二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量について分かることを選び、選んだわけを書く」問題の正答率は41.7%で、全国の平均正答率より10.4ポイント低い。
算数：基礎的事項を確実に理解させる指導の充実	・実際の生活の場面と関連させながら、問題に取り組ませる。 ・朝の学習の時間に、個に応じて補充的な学習を取り入れた指導や繰り返し指導を行い、基礎的な学力の定着を図る。	・「量と測定」領域の正答率は45.8%で、全国の平均正答率より7.1ポイント下回っている。 ・「だいたい何分後に乗り物券を買う順番が来るのかを知るために、調べる必要のある事柄を選ぶ」問題の正答率は70.8%で、全国の平均正答率より11.9ポイント低い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いているか」の質問で、肯定的な回答をした児童は83.6%で、全国の87.0%より3.4ポイント下回っている。	・学習に進んで取り組む児童の育成と学習意欲を高める指導の工夫	・実際に計測したり調べたりする体験的な活動を重視した授業を展開することで、どの児童も意欲をもって学習に取り組めるようにする。 ・朝の学習の時間を活用し、落ち着いた学習に取り組めるよう全学級で指導を徹底するとともに、個に応じた課題を出すことで、進んで取り組めるようにする。
・「家で自分で計画を立てて勉強しているか」の質問で、「している」と回答した児童は24.5%で、全国の33.1%より8.6ポイント下回っている。	・自主的に家庭学習に取り組む児童を育成するための保護者との連携強化	・昨年度上学年で取り組んだ「リレー自主学習ノート」を全学年に広げ、自主学習の活性化を図るとともに、友達の学習内容を参考にできるようにする。